

平成30年12月5日(水)
第35回プラズマ・核融合学会年会
学会関連報告会

プラズマ・核融合学会 学会活動の概要

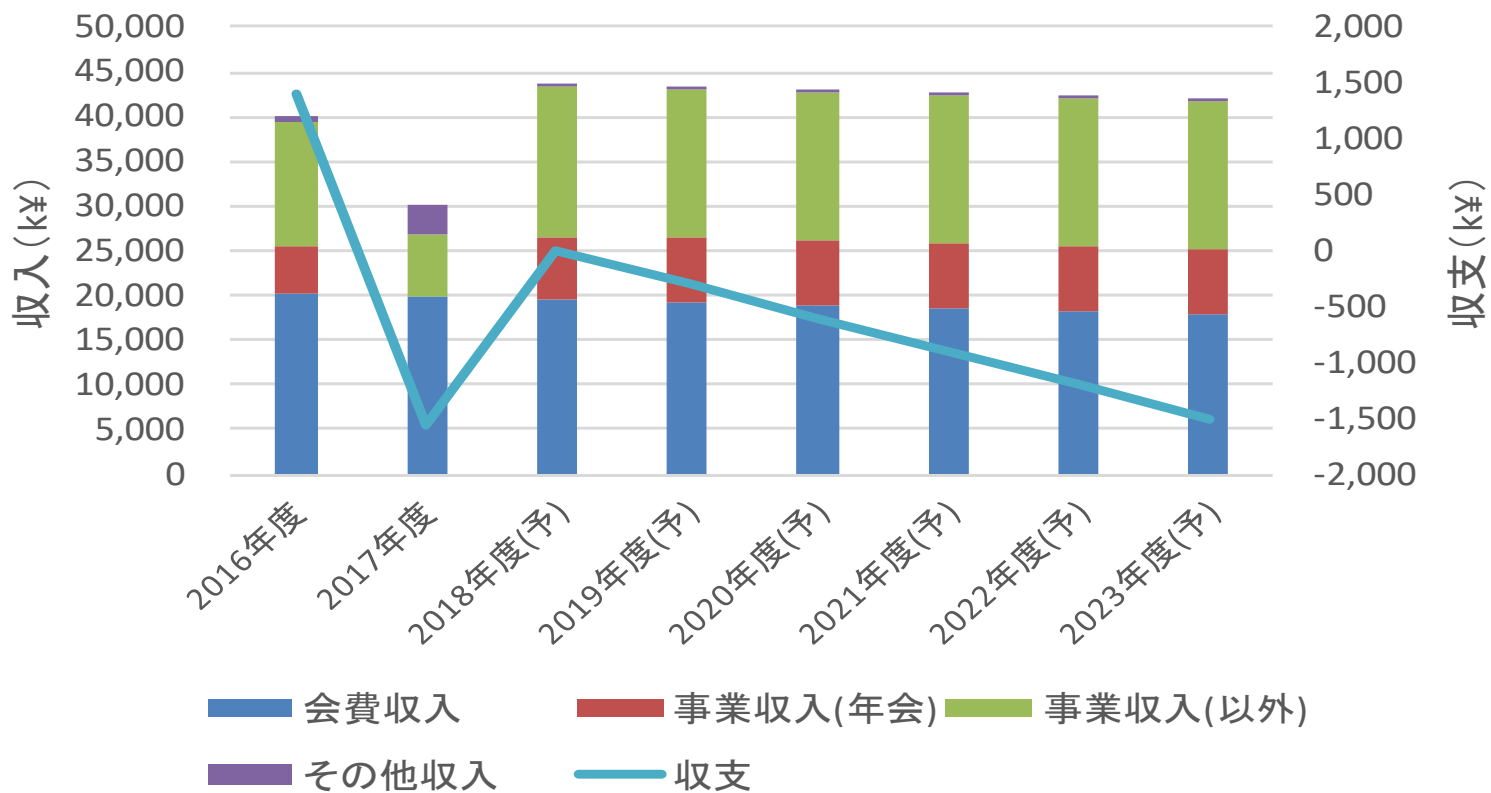
一般社団法人 プラズマ・核融合学会
会長 吉田善章

主要な課題と改革

- スコープの拡大
 - 学際化=学術性
 - 学生会員のニーズ
 - 産業界のニーズ
- 領域制 → 各領域で特徴ある活動
 - オーガナイズドセッション
 - 若手フォーラム(夏の学校の改革)
 - 様々な交流会
- サステナビリティ
 - 会費収入→事業収入
 - 学生会員の増加
 - 啓蒙活動
- 開かれた学会へ
 - 非会員にも開かれた事業の活性化
 - 会費→2000円
 - 高校生シンポの全国ネットワーク化

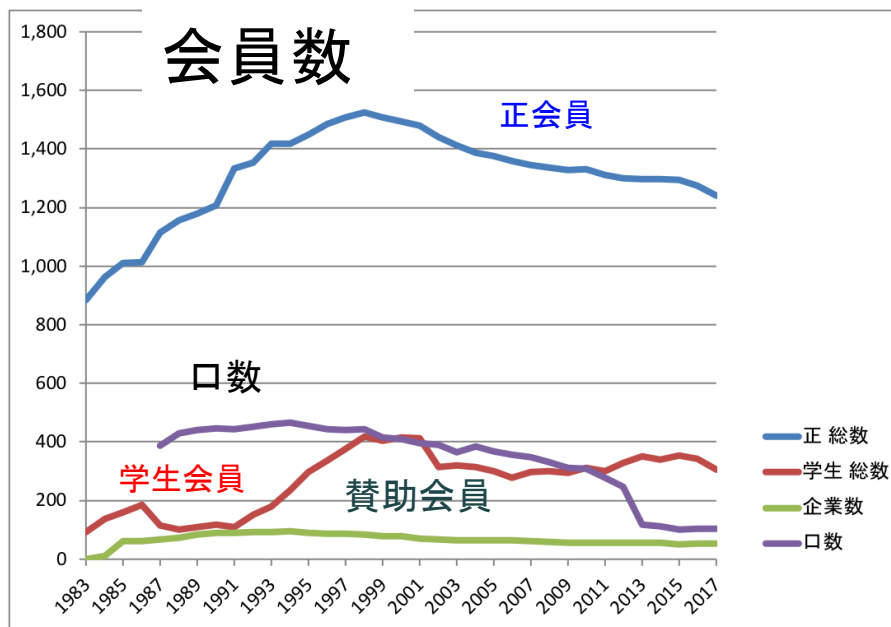
財務状況

収入および収支の予測



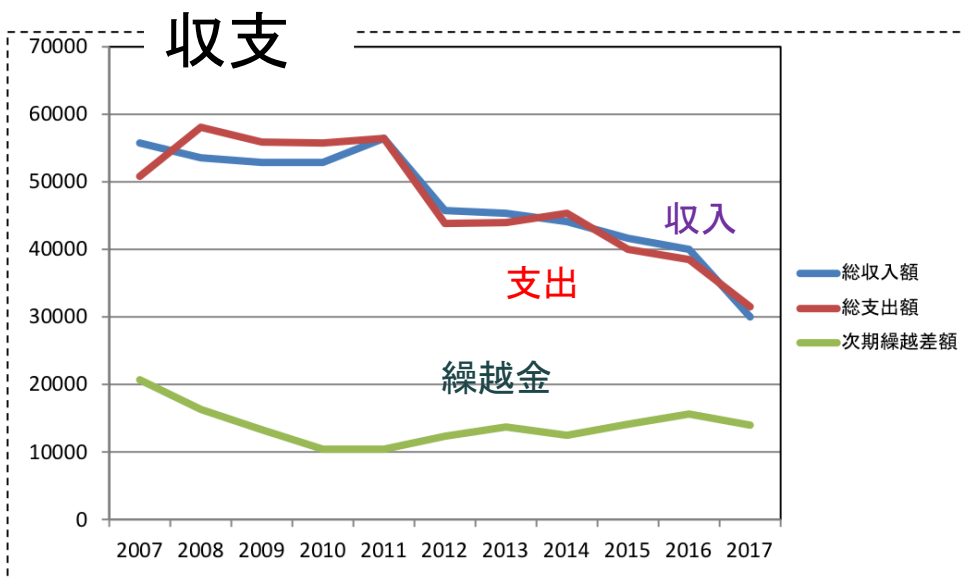
会員と財政の状況

長期的な推移
 会員数
 賛助会員数
 口数



- 近年、正会員数が徐々に減少傾向にある
- 会員の高齢化による退会者の増加？

学会財政
 過去10年間の推移
 (単位: 千円)

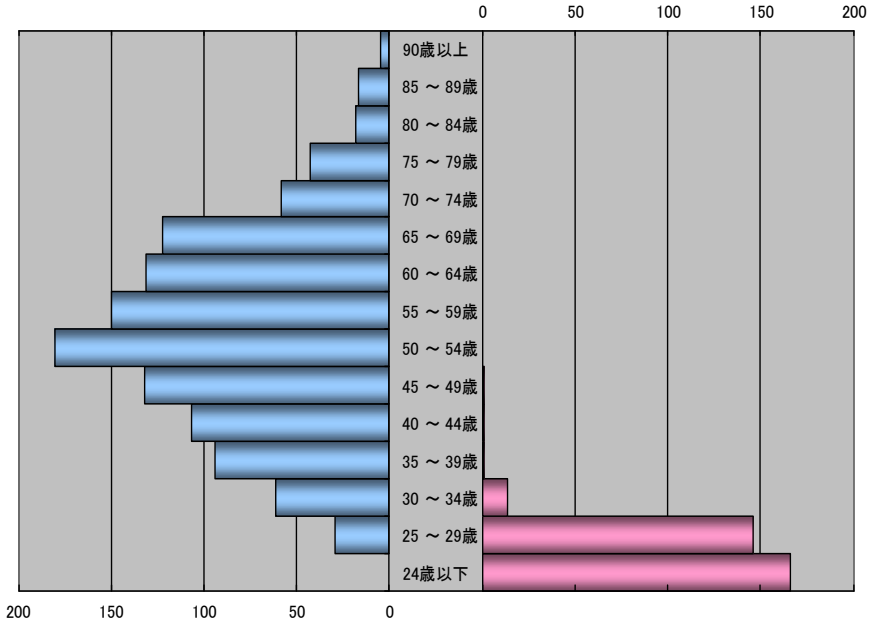


- 賛助会員様による支援と広告収入の減少
- 2016年度は土岐コンが無かったため、2017年度PFR投稿論文数が減少
- 学会財政は依然厳しい

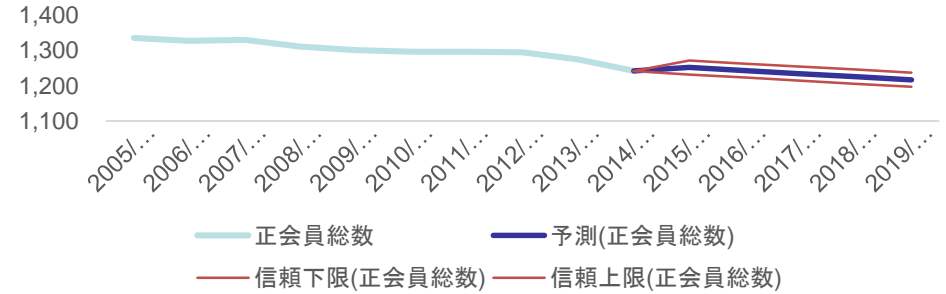
将来に向けて

人口ピラミッド(2023年3月31日推定値)【例】

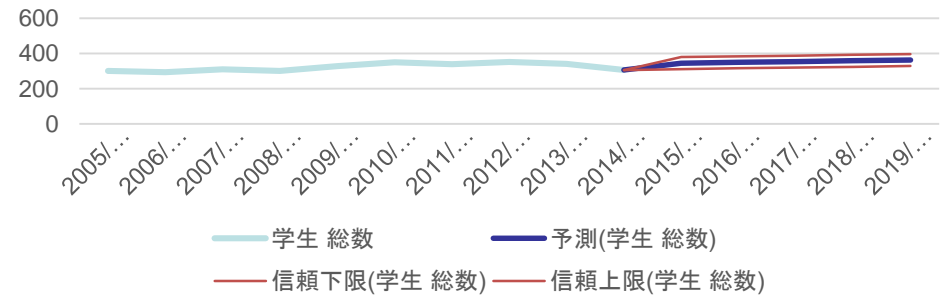
□正会員 □学生会員



正会員数の推移と今後の予想(Excel予測シート/指数平滑化)



学生会員数の推移と今後の予想(Excel予測シート/指数平滑化)



平成30年学会活動の概要

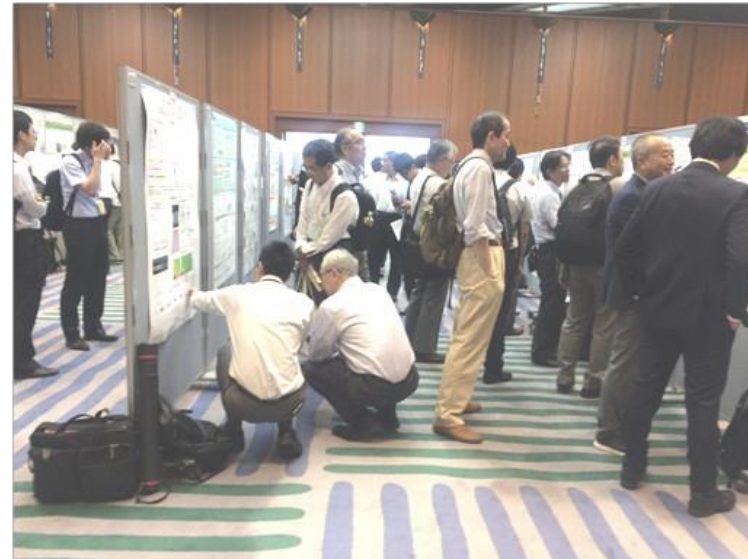
- 第10回おもしろ科学教室(広報委:H30.1.8:名大)参加
- 領域制(プラズマ基礎、プラズマ応用、核融合プラズマ、核融合炉工学)の導入(H30.6月)
- 学会賞に、女性会員を対象とした「紅宝賞」を新設
- 第12回核融合エネルギー連合講演会開催(H30.6.28~29:滋賀)
- 小学生のための夏休み自由研究教室に参加(広報委:H30.7.21:日大)
- 「女子中高生夏の学校」に参加(男女共同参画委:H30.8.9-11)
- 第57回若手夏の学校開催(企画:H30.8.29-31:国民宿舎海峡ビューしものせき(山口県下関市))
- 高校生シンポジウム開催(企画:H30.9.22:核融合研)
- 第35回プラ核学会年会開催(H30.12.3~12.6:大阪大)
- 第11回おもしろ科学教室(広報委:H31.1.14:名大 予定)
- その他の活動、専門委員会(随時)、部会活動(計算科学研究部会)、出版活動(和文誌、PFR)

第12回核融合エネルギー連合講演会 2018 - 核融合炉のロードマップ:今, 実用化に向けて! -

- 6月28, 29日 大津市ピアザ淡海にて開催
- 参加者総数 373 名(正会員 253 名, 学生会員 82 名, その他 38 名), 企業展示 13 社, ポスター発表 259 件(ポストデッドライン 2 件含む), 懇親会参加者 191 名



講演会会場風景



ポスター発表会場の風景

第57回若手夏の学校

- H30.8.29 ~ 8.31 (国民宿舎海峡ビューしものせき(山口県下関市))にて開催
- 全国から大学生・大学院生44名と一般参加者1名、講師8名の総勢53名が参加
- 年会や他のサマースクールと共同開催することができれば参加者の分散を防ぐことができ、先生の確保も行いやすくなるとの意見あり
→「若手フォーラム」として年会前日(or直後)に開催を計画



Zoomを用いた遠隔講義の様子



関門橋をバックに参加者集合写真

高校生シンポジウム

未来を作るプラズマ

-体験しよう総合工学のフロンティア-

- 全国の15の大学・研究所において、事前実習を実施
- 研究発表会を核融合科学研究所にて開催した（H30.9.22）
- 全国から参加した高校、高専の数は 13校（参加者合計53名）となり、口頭発表 6件（内1件はZoomによる発表）、ポスター発表 12件を行い、活発な質疑応答が行われた
- 最優秀発表賞，最優秀口頭発表賞，最優秀ポスター発表賞 各1を表彰



会場風景



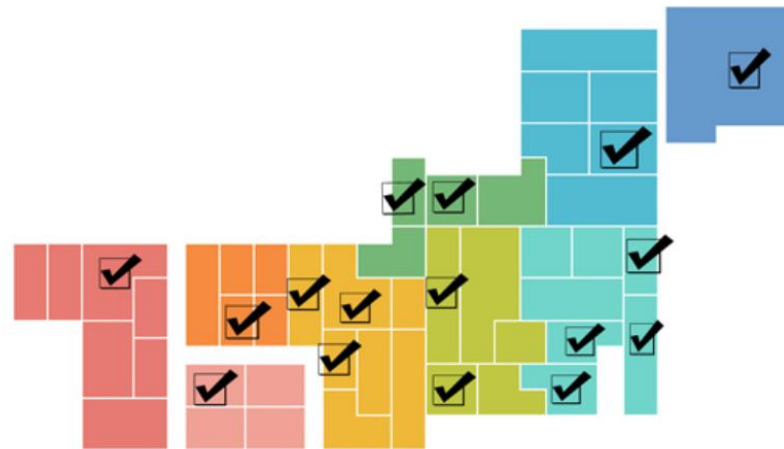
ポスター発表の様子

高校生シンポの全国ネットワーク

★「事前プラズマ実習」受入研究室一覧 [5/10現在]

学校名をクリックすると説明文にリンクします。研究室は順次追加していきます

北大(佐々木研)・東北大(安藤・高橋・小室研)・筑波大(坂本研)・東大(吉田・西浦研)・東大(高瀬・江尻研)・日大(浅井研-1)・日大(浅井研-2)・日大(荒巻研-1)・日大(荒巻研-2)・日大(高杉研)・東海大(利根川研)・富山大(波多野研)・金沢大(上杉・田中研)・核融合研(能登研)・核融合研(吉村信研)・名大(大野・梶田・田中研)・名大(豊田研)・京大(門研)・阪大(上田研)・兵庫県立大(永田・福本・菊池研)・広島大(難波研)・広島大(桧垣・伊藤研)・愛媛大(神野研・前原研)・九大(出射研)



社会に対する科学啓発活動

「プラズマ」及び「核融合」分野の研究・応用・開発、科学技術一般、エネルギー問題などに対する一般社会への認知度を高めるための情報発信

広報委員会では低年齢層（小・中学生）及び一般向けの広報活動の充実を目指して活動を進めている



2018.1.8 第10回「おもしろ科学教室」
共同主催（於：名古屋大学）



2018.7.21 「小学生のための夏休み自由
研究教室」協賛（於：日本大学理工学部）

男女共同参画委員会

- 平成30年度「女子中高生夏の学校2018 科学・技術・人との出会い（夏学）」に参加（QST, NIFS, 総研大、群馬大, 8/9-11）
- 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加（10/13, 建築会館ホール）
- 本年会中にランチオンミーティングを開催（12/4）



2018.8.9-8.11 男女共同参画学協会 女子中高生夏の学校
（於：国立女性教育会館 埼玉県比企郡嵐山町）

専門委員会

- プラズマ科学(基礎・応用分野)、核融合エネルギー関連、炉工学分野に関する萌芽的研究分野の活発化を目指す
- 研究会の開催等を通じて研究を進展させるとともに、学会の年会でのシンポジウムや特別セッション等の提案、他学会との連携や合同セッションの提案・開催、学会誌への投稿などを推奨
- 学会員で構成するが、他学会との連携が必要な場合は、他学会員の参加も推奨
- 活動開始は毎年4月1日で、設置期間は原則として2～3年
- 活動費として、総額40万円を補助
- **H30年度の採択課題(含む継続)**
 - ・継続： プラズマ理工学と農学・食品学・水産学の融合科学：高木浩一(岩手大)
 - ・新規： 地域特産品へのプラズマ応用・高専プラズマネットワークによる地域貢献：川崎仁晴(佐世保高専)
 - ・新規： プラズマ物理における数理的研究の展開：廣田真(東北大)

APFA

- アジア地区を基盤とした、アジアプラズマ・核融合学会
(Asia Plasma and Fusion Association/APFA) 活動
- 日本、インド、韓国、中国が参加
- 2年に1度各国持ち回りで国際会議を開催
- 2015年12月14-18日インドで開催
- 2017年は国際土岐会議(ITC)とジョイントで
2017年12月18-21日に開催